

福島敏夫随筆集「乙戸南雑話【花鳥風月及び星・虹を愛でながら】」から

主宰論説16

2020年を振り返って

今年も、喜怒哀楽いろいろなことがありました。

まず、新型コロナウイルス禍が、世界的に猛威を振るい、今現在も、沈静化する気配もなく、今後どの様に推移するのか、固唾をのんで見守る事態です。改めて、この度の未曾有の新型コロナウイルス禍で、亡くなられた方々、感染された方々のお見舞いを申し上げますとともに、速やかな沈静化を願いたいと思います。

他方、何故か、この新たな伝染病が蔓延する中で、昨年、多発した地震、火事、風・水害、停電、土砂災害などの想定外の天変地異の自然災害・人災が、トルコ・ギリシア大地震や、北米西部の山火事、オーストラリアの大規模森林火災など、世界的には多かったけれども、日本では、台風被害や大地震の災害は、少なかったかもしれません。ですが、令和2年7月豪雨と命名された熊本の球磨川氾濫をもたらした豪雨、全国的な酷暑は、相変わらずですし、小規模の火災は、結構多かったようです。また、年の瀬が迫ってから、北海道、東北、北陸、山陰地方の日本海側だけでなく、全国的に、2016年以來の大寒波と大雪の雪害に見舞われました。『天災は、忘れた頃にやってくる』という寺田寅彦博士の名言もありますから、防災・減災対策は、忘れないようにしてもらいたいものです。亡くなられた方々の心からのご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様のお見舞いと、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。結果的には、伝染病と自然災害と経済の同時克服が迫られました。来年には、解決の方向に向かうことを期待したいものです。

他方、外では、民族的紛争、宗教的争い、内戦・テロ、世界の覇権をめぐる争いは、絶えることがなかったようです。内では、政治的な灰色の霧および不透明問題、医療崩壊の危機、飲食店、観光業の休業・時間短縮による営業困難、鉄道・航空業界の経営悪化、労働環境の悪化など、悲しく、暗い話もありました。今年も、昭和・平成時代を支えた名人・偉人・面白人たちの多くが、長い二度と帰らぬ旅路に赴き、また、世界的にも有名な偉人に近い人等のこの新型コロナウイルス禍による訃報も続出し、悲しみに、襲われることもありました。学・協会の研究発表会・総会や同窓会、記念事業など、多くの重要会合は、中止・延期になりました。

ですが、「はやぶさ2号」の収納物の無事地球帰還など、明るい話題もありました。自然災害に対する実効的な対策の不徹底をめぐる問題、大気・水質・土壌汚染、固体・液体・気体の廃棄物問題、生物多様性の激減など、地球環境問題が、生物全体の存続をも危うくする危険性も認識されるようになりました。可能な限り、的確な防災・減災対策や実効的な対応策を考える英知が必要であることが認識させられました。また、改めて、頂いた命を大切に、天命を全うすることの重要性も、考えさせられました。

私自身は、血行不良からのかなりの回復をできましたが、神経性障害による足・手の痛みやぶり返す腰痛などの体の不具合に悩まされながらも、リハビリテーションを続け、花鳥風月を愛でながら、研究活動を続けました。いろいろな人々に助けられて、予定していた3つの学会（マテリアルライフ学会、日本建築学会、日本建築仕上学会）のうちのマテリ

ルス禍への配慮から、他の2つは、中止およびオンライン形式の開催でした。当分、オンライン形式での学会の研究発表会が続くと考えられました。

今年も、終わりめで、大みそかになります。静かな良い年末と夢と希望と光の見える来年を迎えられることを期待したいものです。今年の皆様のご厚情に感謝したいと思います。良いお年をお迎えください。

